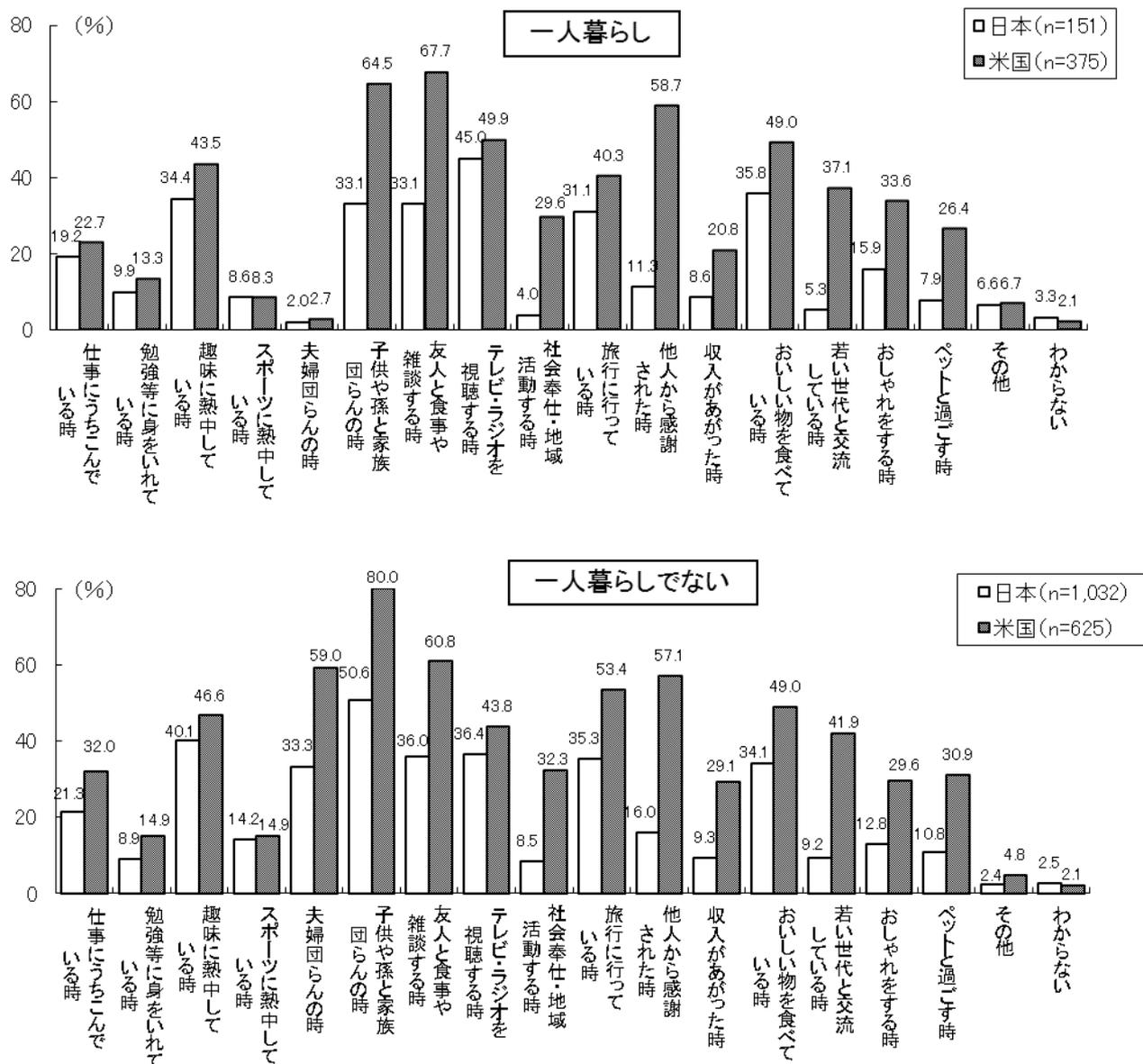


かったが、中でも日本の一人暮らしの男性の QOL の観点から、彼らの生きがい感を高めるための地域での働きかけは、今後ますます重要になってくると考えられる。

図 12-24 一人暮らし／一人暮らしでない別生きがいを感じる時（複数回答）（2010 年）

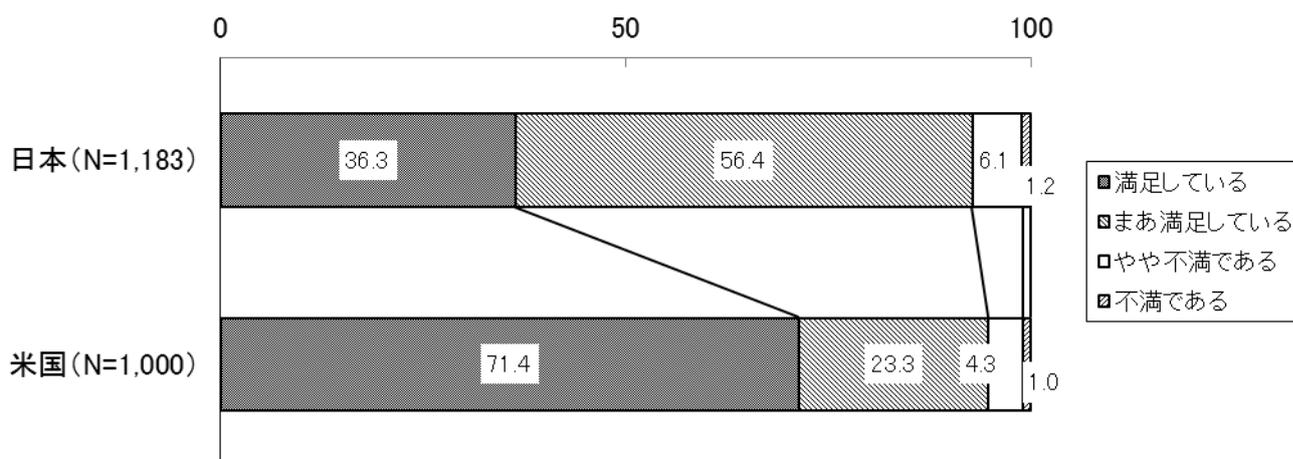


(2) 総合生活満足度 (Q57)

図 12-25 は、「総合的にみて、あなたは現在の生活に満足していますか」に対する回答を、「満足している」「まあ満足している」「やや不満である」「不満である」の中から単一

回答で答えてもらった結果を示したものである。日本は「まあ満足」（56.4%）が最も多く、次に「満足している」（36.3%）であったが、米国は「満足している」（71.4%）が最も多く、次に「まあ満足」（23.3%）であった。特に「満足している」の日本と米国の差が35.1ポイントで、最も大きかった。

図 12-25 総合生活満足度（2010年）



ここで、この総合生活満足度と、前項（図 12-23）でみた「生きがいを感じる時」の項目数の一人当たりの平均値との関係を表 12-1 に示した。日本・米国共に、現在の生活に「満足している」と答えた人ほど、生きがいを感じる項目数の平均値が高いことがわかった。さらに、この総合生活満足度と、先でみた（図 12-19）ボランティア活動や社会活動の一人当たりの参加数の平均値との関係を表 12-2 に示した。日本も米国も、ボランティア活動や社会活動等に多く参加している人の方が、総合生活満足度が高くなる傾向が見られた。従って、他人や外の社会との接点をより多く持つように心がけること、また、生きがいを感じることでできる活動をより多く見つけることが、高齢期の総合的な生活満足度に関与する重要な要因の一つであることがわかった。

表12-1 総合生活満足度と生きがい項目数平均値との関係(2010年)

	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である
日本(N=1,183)	4.04	> 3.66	> 2.56	> 1.64
米国(N=1,000)	6.75	> 5.90	> 4.05	> 3.70

表12-2 総合生活満足度とボランティア等諸活動の参加数平均値との関係(2010年)

	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である
日本(N=1,183)	0.66	> 0.63	> 0.32	> 0.29
米国(n=980)	1.18	> 0.98	> 0.38	> 0.33

10. 今後の高齢社会への対応 (Q59)

図 12-26 は、今回調査(2010年)で、「大切だと思う高齢者に対する施策や支援」を複数回答で答えてもらった結果を示したものである。日本で最も多かった回答は、「介護や福祉サービス」(60.9%)で、「医療サービス」(59.5%)、「公的な年金制度」(57.6%)と続いた。一方、米国の回答で最も多かった項目は、「公的な年金制度」(80.2%)で、「医療サービス」(76%)、「老後のための個人的な財産」(68.6%)、「介護や福祉サービス」(68%)と続いた。

日本と米国の間の差が最も大きかった項目は、「老後の為の個人的な財産」で55.3ポイント、次に、「高齢者の人権理解を促進」で43.1ポイントであった。しかし、何といても、日本と米国の最大の違いは、全ての項目において、日本より米国の方が高く、米国の高齢者の方が、高齢者に対する様々な政策や支援に対して、日本の高齢者より、より多くの人が「大切だと思う」という意識を表明していることであろう。

図 12-26 高齢者に対する政策と支援（2010年）

